

(国語)

楽しんで読み、豊かに表現できる子どもを育てる

—「国語好き」な子どもにするために—

大阪市立住吉川小学校 研究部

## 1. はじめに

平成 24 年度の全国学力・学習状況調査「国語 B 問題ショック」からスタートした校内研究である。本校の子どもにとって国語学習に自信がもてない状況にあった。

子どもたちには、伝え合うための言語活動の大切さや自尊感情を実感させることからはじめた。

- ・国語授業の改善(全員参加の授業・単元を貫く言語活動)
  - ・読書習慣の育成(読書イベントの実施・区図書館の活用・学校図書館の充実)
  - ・漢字検定の活用(校内漢字検定の年 5 回実施・6 年生の「漢検」チャレンジ)
- など、「国語好き」な子どもを育てる校内研究・研修に取り組んでいる。

## 2. 研究の内容

### (1) 「チャレンジ!!国語授業の改善」の校内研修

大半が若手教職員の校内研修である。21 世紀を生き抜くために求められている学力

- ・「自ら課題を見つけ、課題解決について考え、学び、行動する力」
- ・「自分の考えをもつ意欲、それを伝え合い、受け入れ合い、正しく判断し、自分の生き方を問い続ける力」

を共有することからはじめた。そして、人間関係の構築と自尊感情の育成をベースにした国語の授業改善を展開してきた。

#### ◆実践例(2 年) 「お手紙・アーノルド＝ロベール作」(物語文教材)

全員参加の授業づくりをめざして、「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れた。特に「視覚化(ビジュアル化)・しかけ」に注目し「心のバロメーター♡」を活用した。登場人物の心情の理解や表現ができるようにした「しかけ」である。挿し絵等と併用することで子どもの発言が活発になってきた。「わたしは心のバロメーターを 5 こぬりました。それは、この場面のがまくんの気持ちが 5 ぐらいよろこんでいると思ったからです。」などと発言ができる子どもが育っている。

#### ◆実践例(5 年) 「和の文化を受けつぐ・中山圭子著」(説明文教材)

本単元では説明文の読解から発表会の実施まで、「単元を貫く言語活動」が重視される。指導計画では、市国語部の「つかむ・見通す」「広げ・深める」「表し・生かす」学習過程を取り入れた。各過程で子どもが獲得する国語学力を明確にし、次のようにめあてや内容等を意識できるようにした。

「つかむ・見通す」(スラスラ読める)

- ・新出漢字、語句等の意味調べ、音読、あらすじをつかむ、初発の感想など

「広げ・深める」(内容読みをする)

- ・?~!の説明文の構造把握・内容理解・わかりやすい説明方法など

「表し・生かす」(読みを生かす)

- ・区図書館を活用した資料の収集・発表会のための読み取りや表現の工夫など

## (2) 「読書を楽しみ、習慣化する」イベント

学年別に読書コーナーを設置した。教科・総合などの調べ学習で活用できるように、区図書館の団体貸出しを活用し、常に単元にあった調べ学習ができるようにした。また、読書週間では「おすすめ図書の総選挙」などの全員参加型イベントを実施した。



## (3) 自尊感情を育む漢字検定

区長の教育支援事業で、6年生の子ども全員が「漢検」にチャレンジできるようになった。全学年でも「校内漢検」を年5回実施し、漢字学習への意欲を高めることができた。

漢検というゴールを明確にすることで、自分の学習に見通しをもち、粘り強く取り組み姿勢が育ってきた。また、自分の学習ペースで昇級していくことから、達成感や満足感を実感し、次の学習への自信につながった。

## 3. 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

- 全員参加・学力保障の国語授業の進め方が教職員の意識に芽生えてきた。
- 学習発表会では、全学年が講堂のステージから群読・劇などをした。国語学習の成果を子ども・保護者・教職員で共有した。
- 学力向上の指標にしてきた全国学力・学習状況調査「国語 B・話す・聞く」では全国平均に接近し、子どもの自尊感情の回復につながった。
- 校内アンケートの「読書量の増加」や「国語が好き」の項目でポジティブな回答が増加している。

### (2) 今後の課題

- 全員参加・学力保障の授業づくりの他教科への発展。
- アクティブ・ラーニング(主体的・協働的な学び)への研究・研修の深化・充実。